

特定複合観光施設区域整備計画審査委員会（第11回） 議事要旨

1. 日時：令和4年7月25日（金）13:00～15:00
2. 開催方式：対面（中央合同庁舎2号館12階国際会議室）及びWEB会議
3. 議題：
  - （1）第2回質問回答に対する再質問（案）について
  - （2）評価基準の個別審査について
  - （3）今後の審査の進め方について
4. 出席委員：竹内健蔵委員長、山内弘隆委員長代理、朝岡大輔委員、河島伸子委員、樋口進委員、古谷誠章委員、矢ヶ崎紀子委員
5. 議事要旨（✓：事務局 ○：委員）
  - ✓ 第2回質問回答に対する再質問（案）について説明を行った。
  - 資金調達の確実性について、コロナの回復状況に係る項目は、現時点で資金調達の見込みが確実であることが確認できたとして質問しないということではなく、現下の状況においてこの条件の存在をもって要求基準を満たさないと判断するよりも、この点に関して、これ以上の回答は見込めないことから再質問しないということではないか。
  - 個別審査担当から評価基準について説明を行った。

【カジノ収益に対する依存度について】

- 全体収益の約8割をカジノ事業が占めており、中長期的に見てもシンガポールと異なり、その割合が大きく変わらないことが見受けられる点や電子ゲーム機が6400台設置されており、依存症の観点から多すぎると考えられる点について、申請者に改善を促してもよいのではないか。

【非カジノ事業について】

- 非カジノ事業に対する投資について、以前の委員会においてもホテルのグレードや劇場等のコンテンツについて発言があったことから感じられるように、現状では非カジノに対する投資が積極的に見えないところ、IRの意義を踏まえれば、カジノの投資を減らして非カジノの投資を増やしバランスに持っていくことが重要であり、カジノ事業の比率が高い状態が続くことは財務的にも長期的なリスクであり、また、レピュテーションリスクの観点からも改善がなされるとよい。

- 非カジノ事業への投資改善に係る意見に賛成であるが、この点をどういう形で申請者に伝えることを想定しているのか。
- ✓ 申請者に対する質問やプレゼンの場での申請者と委員とのやりとりを通じて、その意図も含めて申請者に伝達していくことが考えられる。

【国際会議の誘致について】

- MICEのマーケットの特性やマーケット側からの視点、近隣都市のMICE施設との競合を踏まえた推計の観点が足りないと感じ、オールジャパンの大きな施設としての視点をしっかり持っているのか不明瞭であるほか、開業3年目の国際会議の件数について、29件のうちICCA基準（※）が9件となっているが、どのような算定をしているのかももう少し確たる根拠がほしい。

※ICCA基準：以下の全ての条件を満たすもの。

- ・参加者総数：50名以上
- ・開催期間：定期的で開催（1回のみ開催した会議は除外）
- ・開催国について：日本を含む3か国以上で会議のローテーションがある

以上